



Leading Edge



Greeting

夏がきましたね！エアボートの季節がやってきました！Japan Airboat Association 季節報の第2弾です。本協会も設立から半年が経ち、徐々に見知らぬ方々からもお声がけいただけるようになってきました。

今シーズンはエアボートの普及に向けて、講演会の支援や今夏のイベントの準備を行いました。今後も、エアボートを利用する機会の創出やエアボートの安全性の向上に向けて、日々活動が続けていきます。

Contents

1. 会長挨拶
2. 協会の目的
3. 活動報告
4. 株式会社モリタ訪問
5. 浜名湖視察
6. Airboat Tips
7. 今後の予定

1. 会長挨拶

梅雨明けが待ち遠しい季節、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？今年の梅雨は日本各地でゲリラ豪雨や水害が頻発しています。我々人間の身勝手な活動が、このような気候変動の一つの原因となっていることを忘れてはなりません。しかし残念ながら、今後も異常気象や水害が続くと予想されます。エアボートで一人でも多くの人命を救出できる体制作りに励んで参りたいと思います。

2. 協会の目的

Japan Airboat Association は「日本国内におけるエアボートの普及や安全管理」を目的として活動を行っています。また、この目的を達成するために以下の 5 項目を柱に活動していきます。

Popularization: 各種イベントの実施

Safety: 航行マナー講習、整備講習の実施

Leisure: レジャー用エアボートの提案

Rescue: 救助用エアボートの提案

Volunteer: エアボートによる地域貢献、災害時の救助活動の実施

3. 活動報告

今シーズンは、エアボートを世の中に広めるために、講演会の参加や今夏に開催予定のイベントの準備を行いました。

- ・ JAA HP に Leading Edge ページを追加
- ・ 株式会社モリタ講演会の支援
- ・ 浜名湖視察
- ・ 夏季イベント日程調整

4. 株式会社モリタ訪問

6 月 3、4 日に消防車のトップメーカー株式会社モリタの三田工場を訪問してきました。訪問の目的は JAA 会員の佐々木氏の講演会の支援です。

講演会は「エンジニアの魂とは ~エアボート開発までの軌跡と展望~」というタイトルで、モリタの技術者に情熱を伝えてほしいというご依頼の元、佐々木氏が登壇しました。講演では、エアボートの製造過程の苦労話や今後の展望について、佐々木氏らしく熱く語り伝えました。また、口頭での説明だけでなく、

兵庫県までけん引していった FAR-1 を実際に見てもらい、スクーパー（漂流者救助ユニット）やエンジンを動かし、エアボートの迫力を間近に感じてもらいました。

特に、実働の際のモリタの技術者の方々の反応はとても熱心で、講演会の最中はもちろんですが、講演会が終わった後もたくさんの方々がエアボートの周りに集まり、細かな点まで注意深く観察していました。佐々木氏も時間の許すかぎり技術者の方々に丁寧に説明し、お互いに非常に楽しそうな表情をしていたのが印象的でした。

後日、モリタから送られてきた技術者の方々のコメントには、「問題の本質を捉え、熱意を持ってあきらめずに続けることの大切さを学んだ」といった意見が多数書かれており、講演会の成功を物語っていました。



佐々木氏による講演会の様子

また、講演会に先立ち、モリタの三田工場を見学させて頂きました。三田工場では消防車を1台1台オーダーメイドで製造しており、現場の熱を体感することができました。特に圧巻だったのは、はしご車の製造で最終過程を人間の手で行っていたことです。あれだけ精密なもののづくりの現場においても、最後は人の手で加工しているということが、意外とローテクなのだなと思うと同時に安心感も生み出しているのかなと感じました。その後、30m級のはしご車に乗せて頂いたのですが、風が強い日だったにも関わらず、はしごを目一杯伸ばした状態でも非常に安定しており、モリタの技術力に圧倒されました。

エアボートの国内における製造においても細部までしっかりとした管理体制を整え、安全安心なエアボートの普及を期待するばかりです。

5. 浜名湖視察

6月18日に浜名湖のマリーナ「ボートクラブカナル(※)」を訪問しました。カナルでは、今後のイベントの打ち合わせや輸入販売しているボートの試乗をさせていただきました。

イベントの打ち合わせでは、カナルが保有する日本に1艇しかないシーレッグスというタイヤ付きの水陸両用艇とエアボートがタッグを組むことで、より多くの方々に水難救助に対する我々の取り組みを紹介できるようなイベントにしようということで話がまとまりました。新たな仲間が増え、心強い限りです。このイベントは9月の中旬に開催予定です。

ボートの試乗の際にシーレッグスに乗せていただいたのですが、陸上からの機動性はど

の船にもないもので、日本の水難救助の柱になる可能性を大いに感じました。また、それと同時に、エアボートとの複合的な利用で様々な水難救助対策に役立てられるという確信も得ることができました。

JAAでは、今後も活動の幅を広げるために、様々な湖川や事業所に出向き、エアボートの有効活用について議論・提案する予定です。



ボートクラブカナルにて柴田社長と



水陸両用艇 シーレッグス

※ ボートクラブカナル

<http://www.bc-canal.com/>

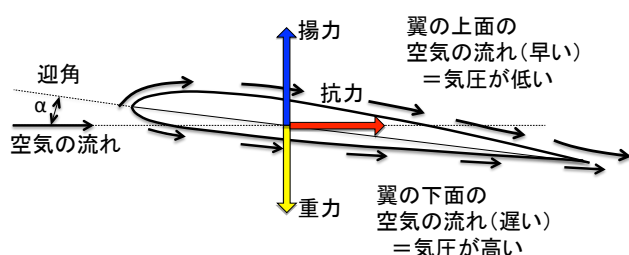
〒431-1207 静岡県浜松市西区村櫛町 4607-13

TEL:053-489-2877 / FAX:053-489-2880

6. Airboat Tips

皆さん、こんにちは。Airboat Tips 第2回です。今回からの数回はプロペラについてお話ししたいと思います。基礎知識として今回は揚力について書かせて頂きます。

揚力とは簡単に言うと、「物体が空気の中を進む時に進行方向と直角に発生する力」です。言葉だけだと難しいので、図をご覧ください。



翼に働く力

これは飛行機の翼が空気中を前進している時の断面です。進行方向の直角方向に揚力が発生しています。この力のお陰で飛行機は空を飛ぶことが出来ています。この力で飛行機と乗客の重さを全て支えている訳ですから、揚力が凄い力に成り得ることが想像できます。

ではなぜ揚力は発生するのでしょうか？ここに、とても有名な「ベルヌーイの定理」というものがあります。流速が早くなると圧力は下がり、逆に遅くなると圧力が下がるというものです。この事を頭に置いて、図を御覧ください。

翼上面の流速が早く、下面の流速は遅いので、翼下面よりも上面の圧力の方が低い事が理解頂けるでしょう。このことから翼は上方方向に持ち上げられる事になります。この力こそ揚力です。

ここで、もう一つ知っておいて頂きたい事として、迎角(むかえかく)があります。迎角は空気の流れ方向と翼が成す角度(図中の α)です。この角度が大きくなるほど揚力が大きくなることと、抵抗となる抗力も大きくなる事を覚えておいて下さい。

ここまでお話しした事は、これからエアボートのお話をしていく上で是非とも知っておいて頂きたいものです。私の拙い文章で、工学に馴染みの無い方にはちょっと難しい話になってしまったかもしれません。ご容赦頂けると幸いです。

7. 今後の予定

今夏は猪苗代湖と浜名湖でイベントを準備しております！各イベントの詳細につきましては HP でご報告していきますので、ご確認よろしくお願いします。また、会員の皆様には直接お声がけいたしますので、もう少々お待ちください。

湖川のイベントでは主にエアボートを体験して頂く企画を考えておりますので、デモンストレーションだけでなく体験試乗などもお楽しみいただけたと思います。また、エアボートにご興味がある方々が集まりますので、BBQ パーティーなどを通して親交を深め合っていきたいと思います。

7 月

JAA 総会 2014 前期

イベント準備 (猪苗代湖)

8 月

イベント開催 (猪苗代湖)

9 月

イベント開催 (浜名湖)